




第1章 環境基本計画の評価

この「環境白書」では、環境基本計画に掲げている「環境指標」の進捗状況から評価を行いました。

環境指標の評価の見方

	目標値を達成することができました。
	目標値を達成することができませんでしたが、平成16年度と比較して、目標値に近づいています。
	目標値を達成することができませんでした。平成16年度と比較しても目標値に近づいていません。
-	環境指標の設定、現状値の把握をしていません。

1-1 自然を身近に感じられる“まちづくり”（基本目標）




印西市には樹林地や農地、公園等の緑が残り、人々のやすらぎの場、生き物の生育・生息空間などになっています。平成17年度の「緑地面積の割合」は、前年度よりも増加し37.8%でしたが、目標値を下回っています。

「生き物の生育・生息種数」は「印西市自然環境調査報告書（平成15年3月）」と比較すると、確認種数に多少の増減はあるものの、特に大きな変化はありませんでした。今後も定期的に自然環境調査を実施していくとともに、生き物の生育・生息環境の保全に努める必要があります。

「市民一人当たりの都市公園面積」は公園整備を積極的に継続していることから、目標値に徐々に近づいています。今後は、公園整備だけでなく、既存の樹林地や農地を守り育てていく必要があります。

印西市は利根川・亀成川等をはじめ、調整池や湧水地など、千葉県内でも有数の水辺環境に恵まれ、さらに、木下貝層等の歴史文化財にも恵まれた地域です。このような環境を後世に引き継ぎ、さらに「自然を身近に感じられる“まちづくり”（基本目標）」の達成のためには、樹林地、水辺環境、歴史文化財の保全対策を進めるとともに、農業を体験できる場の提供等、市民と事業者が連携を取れる仕組みづくりを進めていく必要があります。

環境指標の進捗状況（基本目標）

個別目標	環境指標	目標値	平成15年度	平成16年度	平成17年度	評価
	緑地面積の割合	39.8%	38.0%	37.7%	37.8%	
	生き物の生育・生息種数	印西市自然環境調査報告書(平成15年3月)における確認種数 植物：641種 動物(哺乳類)7種 (鳥類)84種 (爬虫類)8種 (両生類)6種 (昆虫類)124種 (魚類)14種を維持	印西市全域の自然環境調査は、概ね3～5年サイクルで実施する予定であり、平成15、16年度は、調査を実施していません。		植物679種 動物(哺乳類)7種 (鳥類)78種 (爬虫類)6種 (両生類)6種 (昆虫類)129種 (魚類)14種	
	-	-	-	-	-	-
	市民一人当たりの都市公園面積	16.6m ²	9.1m ²	10.16m ²	10.72m ²	
	-	-	-	-	-	-

備考)個別目標の目標値は、環境基本計画では40%以上と設定しているが、緑の基本計画の中間年次(平成22年)の目標値が39.8%であるため、目標値を39.8%と変更した。

印のついている用語の詳細については、資料編P.58以降の用語解説を参照下さい。

1-2 安心して生活できる“暮らしづくり”（基本目標）

「二酸化窒素（NO₂）濃度」、「浮遊粒子状物質（SPM）濃度」、「亀成川及び神崎川のBOD濃度」、「土壌の汚染に係る環境基準の達成状況」、「道路交通振動測定値」、「ダイオキシン類の環境濃度（大気、水質、土壌）」、「印西クリーンセンターの排気口におけるダイオキシン類の測定値」は、目標値を達成しています。

一方、「師戸川のBOD濃度」、「地下水の環境基準の達成状況」、「騒音測定値」、「一人当たりの二酸化炭素排出量」、「一人1日当たりのごみの排出量」、「市資源化率」、「総資源化率」は目標値を達成していない状況です。

「師戸川のBOD濃度」については、平成15年度以降、環境基準値を上回っており、その要因としては、生活排水による影響が考えられますが、河川流量が少ないことも起因していることが考えられます。また、「地下水」については、全調査地点において硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が環境基準値を超過し、目標を達成できませんでした。その要因として、周辺の土地利用の状況から、化学肥料等による影響が考えられます。今後も公共用下水道の整備や合併処理浄化槽の普及啓発等の対策を講じ、河川や地下水の保全対策を図る必要があります。

「騒音測定値」については、測定地点を毎年変更し調査を続けていますが、平成15年度以降、環境基準値を上回る結果となっています。その要因としては、都市化に伴う交通量の増加が考えられることから、県や周辺市町村と連携した道路交通騒音対策を進めていく必要があります。

「一人当たりの二酸化炭素排出量」については、平成15年度以降、ほぼ横ばいの状況であり目標値を達成していません。市民一人ひとりがライフスタイルを見直し、環境への負荷を減らしていく必要があります。

「一人1日当たりのごみの排出量」、「市資源化率」についても、目標値を達成してないことから、今後も引き続き、「印西市ごみ減量計画（平成14年1月）」に基づき対策を進めていく必要があります。

大気、河川、騒音、振動ダイオキシン類の調査地点は、資料編P.20を参照下さい。
印のついている用語の詳細については、資料編P.58以降の用語解説を参照下さい。



環境指標の進捗状況(基本目標)

個別目標	環境指標	目標値	平成15年度	平成16年度	平成17年度	評価
	二酸化窒素 (NO ₂) 濃度	0.04ppm 以下 (千葉県環境目標値)	0.033 ppm	0.032 ppm	0.034 ppm	
	浮遊粒子状物質 (SPM) 濃度	0.10mg/m ³ 以下を維持 (環境基準)	0.082 mg/m ³	0.065 mg/m ³	0.074 mg/m ³	
	亀成川の BOD濃度	3 mg/l 以下を維持 (環境基準)	1.5 mg/l	2.2 mg/l	1.6 mg/l	
	神崎川の BOD濃度	2 mg/l 以下を維持 (環境基準)	1.3 mg/l	2.3 mg/l	1.3 mg/l	
	師戸川の BOD濃度	3 mg/l 以下 (環境基準)	3.4 mg/l	3.5 mg/l	4.6 mg/l	
	土壌の汚染に係る環境基準の達成状況	全調査地点、全項目の達成を維持	全調査地点【3地点】全項目【27項目】を達成している	全調査地点【3地点】全項目【27項目】を達成している	全調査地点【3地点】全項目【27項目】を達成している	
	地下水の環境基準の達成状況	全調査地点、全項目の達成を維持	全調査地点【3地点】全項目【29項目】を達成している	2地点は、基準値に適合。1地点は硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の項目が基準値を超過していた。	全調査地点【3地点】において、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の項目が基準値を超過していた。	
	騒音測定値	昼 60dB・夜 55dB 【A地域】 昼 65dB・夜 60dB 【B・C地域】 以下 (環境基準)	千葉電ヶ崎線 (船穂中学校前) 【A地域】 昼 71dB・夜 68dB	市道 00-005号線 (小林コミュニティプラザ) 【B地域】 昼 68 dB・夜 61 dB	千葉電ヶ崎線 (木下 1404-45 付近) 【B地域】 昼 74dB・夜 72dB	
	道路交通振動測定値	昼 65 dB・夜 60 dB 【第1種区域】 昼 70 dB・夜 65 dB 【第2種区域】 以下を維持 (要請限度)	千葉電ヶ崎線 (船穂中学校前) 【第1種区域】 昼 46 dB・夜 42 dB	市道 00-005号線 (小林コミュニティプラザ) 【第1種区域】 昼 33 dB・夜 31 dB	千葉電ヶ崎線 (木下 1404-45 付近) 【第1種区域】 昼 51 dB・夜 46 dB	
	ダイオキシン類大気環境濃度	0.6 pg-TEQ /m ³ 以下を維持 (環境基準)	印西市役所屋上 0.12 pg-TEQ/m ³ ふれあい文化館 0.12 pg-TEQ /m ³ 高花 0.08pg-TEQ/m ³ 木刈 0.12pg-TEQ /m ³	印西市役所屋上 0.095 pg-TEQ/m ³ ふれあい文化館 0.10 pg-TEQ/m ³ 高花 0.10pg-TEQ/m ³ 木刈 0.10pg-TEQ/m ³ 小林 0.095 pg-TEQ/m ³	印西市役所屋上 0.065 pg-TEQ/m ³ ふれあい文化館 0.070 pg-TEQ/m ³ 高花 0.051pg-TEQ/m ³ 木刈 0.078pg-TEQ/m ³ 小林 0.060pg-TEQ/m ³	
	ダイオキシン類水質環境濃度	1.0 pg-TEQ /l 以下を維持 (環境基準)	草深小学校 0.026 pg-TEQ/l	船穂小学校 0.065 pg-TEQ/l	永治小学校 0.074 pg-TEQ/l	
	ダイオキシン類土壌環境濃度	1000 pg-TEQ /g 以下を維持 (環境基準)	高花小学校 0.069 pg-TEQ/g	大塚前公園 0.53 pg-TEQ/g	内野北児童公園 3.2 pg-TEQ/g	
	印西クリーンセンターの排気口におけるダイオキシン類の測定値	1 ng-TEQ/Nm ³ 以下を維持 (排出基準)	1号炉 0.25 ng-TEQ/Nm ³ 2号炉 0.062 ng-TEQ/Nm ³ 3号炉 0.014 ng-TEQ/Nm ³ (年平均値)	1号炉 0.0014 ng-TEQ/Nm ³ 2号炉 0.0082 ng-TEQ/Nm ³ 3号炉 0.00044ng-TEQ/Nm ³ (年平均値)	1号炉 0.015 ng-TEQ/Nm ³ 2号炉 0.025 ng-TEQ/Nm ³ 3号炉 0.034 ng-TEQ/Nm ³ (年平均値)	
	一人当たりの二酸化炭素排出量	平成13年度レベル (5.20t-CO ₂ /年) を維持	5.46 t-CO ₂ /年 (平成14年度)	5.31 t-CO ₂ /年 (平成15年度)	5.53 t-CO ₂ /年 (平成16年度)	
	一人1日当たりのごみの排出量	866 g	930 g	923g	956g	
	市資源化率	21 %	21 %	20 %	20 %	
	総資源化率	28 %	27 %	27 %	26 %	
	-	-	-	-	-	-

備考1) 個別目標 については当該年度のデータを把握できないため、前年度のデータを報告しています。
 備考2) 個別目標 については、平成17年度に年度別目標推計見直しが行われたため、数値が変更されています。
 備考3) 印西クリーンセンターの排気口におけるダイオキシン類の測定値は、印西地区環境整備事業組合の提供資料によります。
 印のついている用語の詳細については、資料編 P.58 以降の用語解説を参照下さい。

1-3 みんなで環境を育てる“しくみづくり”（基本目標）

「環境情報の提供回数」は平成15年度以降、目標値を達成していますが、「環境講座、環境イベントなどの開催回数」、「こどもエコクラブ登録件数」、「環境活動団体数」は、いずれも目標値を達成していません。

今後は、市民・事業者への意識啓発を行うとともに、子どもたちが環境に関心を持ち、行動につながるように、環境学習の教材づくり、指導者づくり、拠点づくりを進め、次世代に良好な環境を引き継いでいくことを目標に、環境イベントなどの継続開催や開催内容の充実を図る必要があります。

環境指標の進捗状況(基本目標)

個別目標	環境指標	目標値	平成15年度	平成16年度	平成17年度	評価
	環境情報の提供回数	12回	24回	24回	24回	😊
	環境講座、環境イベントなどの開催回数	12回	7回	6回	7回	😐
	こどもエコクラブ登録件数	15件	3件	2件	2件	😐
	環境活動団体数	17団体	9団体	9団体	9団体	😐

印のついている用語の詳細については、資料編 P.58 以降の用語解説を参照下さい。

